

アントレ・レーベルからCDデビューした演奏家たち集結!!
(1999~2009リリース)

Entrée

アントレ古楽コレクションズCD 創設10周年記念
ガラ・コンサート

Gala Concert

出演者

原 雅巳(ソプラノ)

田中せい子, ダニエレ・ブラジエッティ(リコーダー)

東京リコーダーオーケストラ(指揮:金子健治)

前田りり子(フラウト・トラヴェルソ)

三宮正満(バロック・オーボエ)

永田斉子(リュート)

品川 聖(ヴィオラ・ダ・ガンバ)

岡田龍之介, 芝崎久美子, 平井み帆, 水永牧子(チェンバロ)

曲目: アントレ古楽コレクションズCDの収録曲, 他

2010 1|14 (木) 19:00 開演
18:00 開場

日本大学カザルスホール

千代田区神田駿河台1-6 Tel 03-3294-1229

チケット料金

4,000円(前売券) 4,500円(当日券)

CD付きチケット 6,000円(前売券のみ)

※コンサート当日好きなCD1枚と引き換えられます

全席自由

当日ロビーにて古楽情報誌「アントレ」のバックナンバー2010冊(No.214まで)プレゼント!!

お問合せ・予約・チケット取扱い — アントレ編集部 Tel 042-378-7603 Email: info@em-entree.jp HP: http://www.em-entree.jp/
チケット取扱い — カザルスホール(窓口販売のみ) Tel 03-3294-1229 / 東京古典楽器センター Tel 03-3952-5515

主催: アントレ編集部 共催: プレインミュージック 後援: ベルギー王国大使館 / 東京古典楽器センター 協力: 久保田チェンバロ工房

アントレ古楽コレクションズCD

どこまでも美しい古楽器の響き・・・優しく、そして鮮烈に、心踊る演奏がここに蘇る。



アントレ古楽コレクションズ 1

ラ・フォンテーヌ

『バロックの泉』～管楽器を伴う18世紀室内楽曲集～

96年、結成。97年古楽コンクール・アンサンブル部門にて最高位受賞、同年NHK-FM1サイタルに出演。バロック音楽を中心に、各メンバーの個性を生かしたエキサイティングなステージにより、遠い時代の音楽を生き生きと現代に蘇らせている。(1999年リリース、ラ・フォンテーヌの初アルバム)

EBM-199001



アントレ古楽コレクションズ 9

田中せい子 | ダニエレ・ブラジエッティ

『デュオ』

14本の楽器と多彩なレパートリーによるリコーダー・デュオの世界。ある時は甘美な音色がひとつに溶け合いながら、またある時は光と影のように強烈なコントラストで、のびやかに二人の対話が繰り広げられる。デュオの奥深さを堪能させてくれる一枚。(2003年リリース、田中・ブラジエッティ両氏の初アルバム)

EBM-202008



アントレ古楽コレクションズ 2

東京リコーダーオーケストラ

『セビーリヤ』

多くの人に親しまれ、シンプルでありながら表現力に優れた楽器＝リコーダー。そのアンサンブル、その美しく響く音は、甘く陶酔させる何かを持っている。金子健治指揮による14人のリコーダー奏者たちの妙技、大小8種類のリコーダーを用い、レジストレーションの効果を巧みに生かした響きは、さながらオーケストラのよう。世界的にも稀有なアプロの音楽集団。(1999年リリース、東京リコーダーオーケストラのCD初アルバム)

EBM-199002



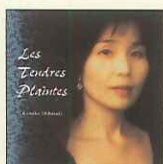
アントレ古楽コレクションズ 10

チェンバロ 岡田龍之介

『銀色の響き』

いにしえ、銀の鈴を鳴らすが如き、と形容され、多くの人を魅了して止まなかったチェンバロ。その静謐にして豊富な響きは、聴く者を安らぎに満ちた至福のひとつときと誘う。しっとりとした情趣に彩られた、珠玉の作品によるアンソロジー。(2003年リリース、岡田氏のソロ初アルバム)

EBM-203011



アントレ古楽コレクションズ 3

チェンバロ 芝崎久美子

『優しき嘆き』～フランスのクラヴサン作品集～

優美繊細にして深い情感をたたえる17・18世紀フランスの作品集。確かなテクニックを支えられた芝崎久美子の演奏は、チェンバロ(クラヴサン)の魅力を余すところなく伝えてくれる。しなやかな感性の息づく香り高い逸品である。(2000年リリース、芝崎氏のソロ初アルバム)

EBM-200004



アントレ古楽コレクションズ 11

チェンバロ 平井み帆

『アフエッティ・カンタービレ』

情熱的で、ドラマチック、豊かな情感溢れるイタリアのチェンバロ作品。そのエモーショナルな世界を平井み帆が輝かしく歌い上げ、親密に語りかける。そこには作品への深い共感と鋭い洞察に基づく情熱的な感性の交流がある。17・18世紀イタリアの魂の歌が、今蘇る。(2004年リリース、平井氏のソロ初アルバム)

EBM-204014



アントレ古楽コレクションズ 4

ラ・フェート・ギャラント

『雅なる宴』～フランス・バロックの精華～

時は18世紀半ば。華栄を極めた爛熟期のパリ。日夜繰り広げられる貴族たちの華麗な饗宴。そんなロココ・フランスのエスプリが息づく“雅なる宴(ラ・フェート・ギャラント)”が、新世紀に生きる4人の若手奏者たちによって、今蘇る。(2001年リリース、ラ・フェート・ギャラントの初アルバム)

EBM-200005



アントレ古楽コレクションズ 12

原 雅巳 | 永田 齊子

『ふらんすの恋歌』～エールド・クール～

17世紀フランス、アンリ4世とルイ13世の宮廷でのリュート歌曲集。秘めやかな愛の情景がたおやかなリュートの響きにのせて艶やかに歌われる。繊細・洗練の極みともいべきフランス語の詩。ひととき優雅な歌曲と静謐な余韻に包まれるリュート・ソロの作品。(2005年リリース、原・永田両氏の初アルバム)

EBM-205016



アントレ古楽コレクションズ 5

ルネサンス・リュート 永田平八

『涙のパヴァーン』～J. ダウランド・リュート曲集～

シェクスピアが活躍したイギリス・ルネサンス時代の代表的リュート奏者ジョン・ダウランド。メランコリックな作品は広く親しまれた。そのエッセンスを凝縮した一枚。どこまでも透明で優しく響く音色は、時を超えて現代人の心を癒す。(2002年リリース、永田氏のソロ初アルバム)

EBM-201006



アントレ古楽コレクションズ 13

ヴィオラ・ダ・ガンバ 品川 聖

『ソロ』

「ソロ」一 ひとつの旋律楽器で紡ぎ出されるガンバの多様な音色を余すところなく追求している魅力的な一枚。オルティエスからアーベルまで約200年余(1553～1770年)にわたり、諸国で試みられたソロ作品が集結。まさにガンバ音楽の歴史を俯瞰するともいえるアルバム。(2007年リリース、品川氏のソロ初アルバム)

EBM-207017



アントレ古楽コレクションズ 6

チェンバロ 水永牧子

『D. スカルラッティ・ソナタ集』

独自の音楽を个性的手法で表現し尽くす天才スカルラッティ。「機知に富んだ技巧との戯れ」こそ彼の音楽に期待すべき本質である。水永牧子は深い共感をもって各曲を鮮やかに弾き分けている。若く瑞々しい感性が光る一枚。(2002年リリース、水永氏のソロ初アルバム)

EBM-201007



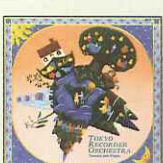
アントレ古楽コレクションズ 14

岡田龍之介 | 上蘭未佳

『チェンバロ・デュオ』

華麗にして大胆、ときに親密な表情も見せるチェンバロ・デュオの響き。その独特の魅力で、息の合った絶妙のアンサンブルが鮮やかに描き出す。5台の楽器を駆使し、ルネサンスから近代に至る多彩な作品を網羅した意欲的な一枚。(2008年リリース、岡田、上蘭両氏の初アルバム)

EBM-207018



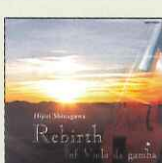
アントレ古楽コレクションズ 7

東京リコーダーオーケストラ

『トッカータとフーガ 二短調』

“素朴”な音色をもつリコーダー。しかし、それが束になった時、また新しいサウンドが生まれる。15人のリコーダー奏者たちによって、バハ、モーツァルトのオルガン作品が、今ここに瑞々しく蘇った。『セビーリヤ』に続くTR0待望の第2集である。(2003年リリース)

EBM-202009



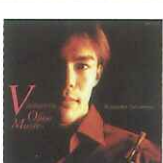
アントレ古楽コレクションズ 15

ヴィオラ・ダ・ガンバ 品川 聖

『リバーズ・オブ・ヴィオラ・ダ・ガンバ』

18世紀にひとたび音楽史の表舞台から姿を消した楽器、ヴィオラ・ダ・ガンバ。その哀亡間際の輝きを伝えるアーベルの無伴奏曲集に、現代の名手品川聖が挑む。古典派音楽を舞台として新たに花開くヴィオラ・ダ・ガンバの魅力、余すところなく詰め込んだアルバム。(2009年リリース、品川氏のソロ第2弾)

EBM-209019



アントレ古楽コレクションズ 8

オーボエ 三宮正満

『ヴィルトゥオーソ・オーボエ』

古今のオーボエ・ヴィルトゥオーソ、時空を超えてここに集結。「BCJ」、「ラ・フォンテーヌ」など世界を舞台に名技を見せる三宮正満が、かくも大胆に18世紀の名手に挑む。世界初録音のブラのソナタをはじめ、瑞々しく、官能的なバロック・オーボエの世界が鮮やかに蘇る。(2003年リリース、三宮氏のソロ初アルバム)

EBM-202010

アントレ古楽コレクションズ 各 2,940円(税込価格)



諸詠音楽 『出島のオランダ音楽』

日本オランダ交流400年記念。鎖国の頃長崎の出島で、遠く母国を離れたオランダ人たちが慰みに奏でたかも知れない自国作曲家の作品や、当時のヨーロッパで知られた作品を集めたアルバム。(1999年リリース)

EBM-199503



ジーン・キム & ムジカ・グロリフィカ 『聖歌』～17世紀イタリアの器楽～

韓国のヴァイオリン奏者ジーン・キムが創設したムジカ・グロリフィカによる、イタリア初期バロックの珠玉の作品集。(2004年リリース、ムジカ・グロリフィカの初アルバム)

EBM-202513



大竹尚之 リコーダー変奏曲集 『僕の好きな歌』

リコーダーのバイブルともいえる17世紀半ばに出版されたファン・エイクの『笛の楽園』。このアルバムは大竹尚之ヴァージョンの「新・笛の楽園」。自らが作ったデモンストラーション(分刻装飾)で愛好曲を演奏する。(2004年リリース、大竹氏のソロ初アルバム)

EBM-203512



諸詠音楽 『イタリアバロック「愛とドラマ」の音楽』

バロック音楽は新しい形式以外に、その背景にギリシャ神話などから題材が取り入れられ、「ドラマ」(劇)に「語り」や「アリア」などの音楽が付付けられてオペラが生まれる。どんな小さな歌曲にも「ドラマ」が見られ、そしてその題材のほとんどすべてが「愛」である。(2005年リリース)

EBM-203515

各 2,940円(税込価格)